

⑥5 河川激甚災害対策特別緊急事業（真備緊急治水プロジェクト）

受賞機関 岡山県 備中県民局 建設部 河川激甚災害対策班

キーワード 関係機関等と連携した事業、地域の活性化

全建賞審査委員会の評価ポイント

平成30年7月豪雨の再度災害防止策としての高梁川水系小田川支川3河川における堤防整備。河川横断構造物の統廃合による工期短縮、他工事発生土砂の流用によるコスト削減を図った点や、進捗や道路通行止め情報を複数手段用いて発信するなど地域の方々から理解を得られるよう工夫を行いながら、目標年度に完成させた点が評価された。

1. はじめに

平成30年7月豪雨は、西日本を中心に全国的に広い範囲で大雨となり、多くの観測地点で長時間降水量が観測史上最大となるなど、記録的な大雨となった。

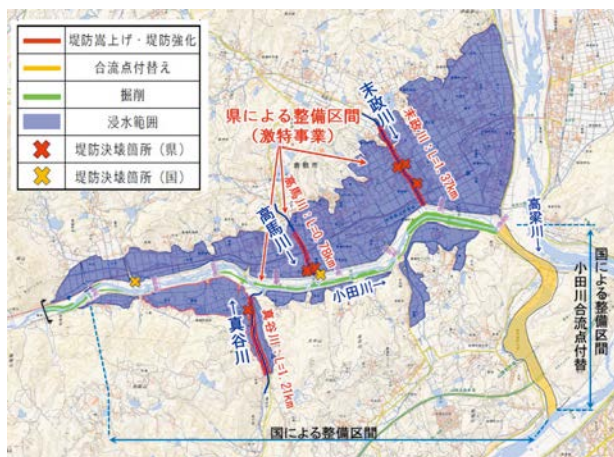
高梁川流域では断続的に激しい雨が降り、多いところでは降り始めからの総雨量が400mmを超え、この降雨により、高梁川水系高梁川の日羽、酒津、小田川の矢掛の各水位観測所において、氾濫危険水位を超過し、観測史上最高水位を記録した。

この洪水により、小田川及び小田川支川3河川（末政川、高馬川、真谷川）の各河川で堤防が決壊し、倉敷市真備町の市街地等で広範囲の浸水被害が発生、死者51名、浸水面積約1,200ha、全壊棟数約4,600棟の甚大な被害が発生した。

2. 事業の概要

平成30年7月豪雨に対する再度災害防止を図るため、国・県が連携して「真備緊急治水対策」を実施することとし、国管理の小田川の水位を抜本的に引き下げる小田川合流点付替え事業、県管理の末政川・高馬川・真谷川において重点的な堤防整備（堤防嵩上げ・堤防強化等）などのハード対策を河川激甚災害対策特別緊急事業（平成30年9月採択）により、概ね5年間での完成を目標に実施することとなった。

事業の早期完成が望まれるなか、施工の合理化及び効率化を図るため、堤防整備に伴う機能回復が必要な複数の河川横断構造物（伏せ越し構造の用水路）について、施設の統合や構造の変更を実施したほか、約3.4kmの堤防整備を短期間で実施するため、施工箇所付近に築堤盛土材をストックできるヤードを確保し、他工事で発生する残土を有効に活用することで、コスト削減及び工期短縮を行った。



真備緊急治水対策

3. 事業の成果

岡山県では、真備緊急治水対策の一環として、小田川支川3河川（末政川・高馬川・真谷川）において、重点的な堤防整備（堤防嵩上げ、堤防強化等）の改良復旧工事を実施した。

令和6年3月に完成したことで、平成30年7月豪雨と同程度の洪水に対して、人家等の浸水被害が解消されることとなる。



完成した末政川堤防

4. おわりに

本事業の推進に当たっては、平成30年7月豪雨からの復興に向け、国、県、市の具体的な行動計画を定めた「真備緊急治水対策プロジェクト」を策定、ハード対策とソフト対策について連携・協力して推進した。

ご協力いただいた関係者の皆様、多大なご理解いただいた地域の方に、改めて感謝の意を表す。

賛助会員 (株)エイト日本技術開発、復建調査設計(株)